

アレンジの力

今回のテーマはアレンジの力というテーマでお届けします。アレンジ或いは編曲という仕事は、原曲の良さを生かしつつ、ミュージシャンやシンガーが得意とする、或いは表現したい内容に最もフィットするように曲に新たな魅力を付け加えることです。ほとんどはスタンダード曲が題材になります。

現在、もとになるスタンダード曲はリードシートという譜面の形式で残っていて、そこにはDm7とかA7というコードネームと単音メロディだけが書かれています。例えばピアノでの演奏を例にとると、左手でコードをストレートに弾いて、右手でメロディを単音で弾いたとしましょう。もちろん、それだけでも曲のイメージは聴き手に伝わりますが、それだけではあまりに情報量が少なく、物足りなく聴こえてしまいます。

そこで、ベースなど低音楽器を入れてピアノはコードのルート弾かず、テンションを含んだリッチなサウンドにしたり、あるいはメロディを右手の小指（トップノート）で弾くのに合わせてコードの構成音やテンションを両手で弾くというのがアレンジの第一歩になります。

◎原曲の良さを損なっては意味がない

さらに、メロディはストリングスのヴァイオリンやシンガーが歌うことで表現し、コードをピアノではなく、管楽器やストリングスが表現し、リズム的アクセントをつけるためにドラムやパーカッションが入るなど、厚くてきらびやかなサウンドにしていくことが可能です。もちろん、リズム自体もボサノバにしたり、SWINGにしたりなど無限のバリエーションがあります。

ただしやり過ぎてはダメで、第一に原曲をリードシート譜面通りに演奏したり歌ったりするよりも良く聴こえなければなりません。これが実は難しく、ジャズライブやレコーディングの現場でも必ずしも成功しているケースだけではありません。

稀にですが原曲が何なのかわからないくらいにいじりまわして、できあがりにも魅力を感じないということもあります。そこまで変えてしまっても元の曲まで分からなくしてしまうのなら、なぜその曲を選んだのかと言いたくなりますし、作曲家に対しても失礼ではないかと思うのです。最低でも、原曲よりずっと良くなったとまでは言えないけど、これはこれでアリだなと感じてもらえるようなアレンジをして欲しいものです。

それだけアレンジは難しく、演奏とは全く別の才能が要求されるわけですが、素晴らしく編曲された曲を聴くと、原曲をストレートに聴いた時には感じなかった大きな魅力を感じることができます。それがアレンジの力で、今回はそんな例をいくつかご紹介したいと思っています。4/7（日）のレクチャーライブでコール・ポーター特集を取り上げるために、最近ポーターの曲ばかり聴いていたので、彼の曲を中心に音源を探しました。

最初に聴いていただくのはポーターの恐らく最大のヒット曲で、現在も歌でもインストでも演奏されることの多いNight And Dayをエラ・フィッツジェラルドが歌っている音源です。

<https://www.youtube.com/watch?v=05-bvQR05mo&list=PLESSdXdXqDa7B0FSF0IS42u2ZctmB6m-K&index=28&t=0s>

ストリングスと管楽器両方が入る、歌伴としてはオーソドックスなアレンジですが、よくできていると思います。ウォーキングベースの上でストリングスがコード感を表現し、要所で管楽器がリズム的なキメで入ってきます。途中で管楽器のボリュームがもう少しだけ抑えて欲しいと思う瞬間もありますが、典型的な歌伴のアレンジと言えるでしょう。

◎歌（メロディ）と伴奏パートのボリュームバランスが重要

次は自分が大好きなポーターの「In The Still Of The Nigh」（夜の静けさの中で）です。ここではいわゆるジャズコンボ的なアレンジとPOPS的なアレンジの両方を聴いていただきたいと思います。たまたま、これも自分が好きなシンガーでメルマガでも度々ご紹介してきたジュリー・ロンドンが2つのアレンジで歌っている音源を見つけました。

アレンジのカ

まずはジャズ的アレンジの方から。バド・シャンクというアルトサクソ奏者のグループがバックで演奏しているようです。悪くはないのですが、コード楽器であるピアノやギターが鳴っていない時間が多くボリュームも小さいので、ベースだけだとコード感がちょっと足りない感じがします。

<https://www.youtube.com/watch?v=BEPwIHJ3TaM>

次は思いっきりPOPS的なアレンジで聴いてください。

<https://www.youtube.com/watch?v=XZmehb3jWyM>

ジャズの要素はありませんが、自分としては曲の良さがより分かる演奏だと思います。前半はオルガンの伴奏が少し目立ちすぎる感じがありますが、それでも曲の持つコード感がよく出ていると思います。51秒当たりから「Do you love me, as I love you～」という歌詞で始まる後半部分は、オルガンが引っ込みストリングス中心に展開します、この部分がとても好きですね。

2曲聴いただけでも、楽器パートのボリュームバランスがとても重要だと分かります。アレンジされた曲は録音で聴くことがほとんどだと思いますが、楽器間のボリュームがどのように録音されているかで印象は全く違います。

例えばエラが歌っているポーターの「I Get A Kick Out Of You」。最初のナイトアンドデイと同じアルバムだと思われそうですが、ストリングスは入らず、ピアノトリオ+ギターをバックに歌っています。ピアノ伴奏のアレンジの趣味はとても良いのですが、コードを表現するピアノとギターのボリュームがやや小さく、もう少しだけちゃんと聴こえて欲しいという感じがあります。あくまで自分の趣味ですが。まあ、ことほどさように、バランスよく録音するというのは難しいということでもありますね。

<https://www.youtube.com/watch?v=4K7ZE6qLTsg>

◎最高のアレンジャー、ネルソン・リドル

自分が最も素晴らしいと思っているアレンジャーは、ネルソン・リドルという人です。フランク・シナトラの黄金時代と言われるキャピトルレーベルでアレンジを担当、曲の良さとシナトラの歌を最大限に生かして一世を風靡しました。

中でもヒットとなったポーターの「I've Got You Under My Skin」を聴いてください。ストリングス、管のアレンジが実にいい感じですし、歌と楽器のバランスも最高です。アルバムタイトルの「songs for swingin' lovers」というタイトルも粋ですね。この時代のシナトラとリドルアレンジの曲はyoutubeでもたくさん聴くことができるので、アレンジにも注目しながら是非聴いてみてください。

<https://www.youtube.com/watch?v=SPu0zkfmgIQ>

リドルのすごいところは、スタンダードをそれまで歌っていなかったPnガーとの組み合わせでも良い音楽を作り出したところにあります。リンダ・ロンシュタットという、それまでロックを歌っていたシンガーにスタンダードのアレンジを提供するという、おそらく初めてのコラボレーションを成功させました。

1983年に『What's New』、1984年に『Lush Life』、1986年に『For Sentimental Reasons』を発表、リドルの魅力的なアレンジを施したスタンダード曲が、ロンシュタットの歌唱力によって新鮮な魅力を持って蘇り、3枚合わせて米国内だけで800万枚を売り上げるベストセラーとなりました。多額の費用がかかるオーケストラを従えてのツアーも成功させたことで、人気ぶりがわかります。

ロンシュタットというシンガーは声の伸びとヴィブラートの美しさが特筆もので、メルマガでも何回か取り上げました。まずWhat's Newです。リドルのアレンジが彼女の魅力を完璧に引き立てています。1983年録音。

<https://www.youtube.com/watch?v=Hx5ENGRPEsg>

次はホーギー・カーマイケルの名曲Skylarkです。アレンジの見せ所の1つはイントロ

アレンジの力

からいかに期待感を持たせるかにあると思いますが、その意味でも素晴らしいです。
https://www.youtube.com/watch?v=dzNmG_lpNw8

クラシックのソプラノ歌手キリ・テ・カナワもリドルのアレンジとリドル楽団の演奏で歌いました(Blue Skies)。
<https://www.youtube.com/watch?v=ycxiI5Wr9GU>

スタンダード曲の持っている素晴らしい魅力を、普段スタンダードを聴く機会がなかったはずのリスナーも抵抗感なく聴けるように編曲し、それでいて飽きさせない音楽的な奥の深さを持っている。ここがリドルのアレンジの凄さだと思います。

◎Lydianからのお知らせ

4/7(日) 昼のレクチャーライブ「コール・ポーター特集」のリハをRemiさん(vo)、外谷東さん(p)と行いました。お二人とも企画の意図をきっちり理解していただき、充実したリハになりました。

Remiさんの声は浅草ジャズコンテストの会場で聴いた声とまた違った素晴らしさ、エッジがあってよく響き、リハなのに感動してしまいました。今回のために新曲を5曲仕上げるというガッツにも感謝です。

歌伴の名手であり、Remiさんと自分のピアノの師匠でもある外谷さんのリード、伴奏もさすがの一言です。このお二人に頼んで良かったと改めて思いました。

レクチャーライブも4回目、今回も良い企画になるという予感はありませんでしたが、今日のリハを終えて、お客様には必ず満足していただけるという確信に変わりました。

ポーターは、ミュージカルの場面や歌詞の世界を伝えるために、聴衆にどんな感情を引き起こすか、そのためにどんな音を使うかという狙いがはっきりしていて、「なるほど、こういうことを考えて曲を作ったのか」と分かるのです。例えば、メジャーとマイナーの世界を行き来したり、モチーフメロディの一部だけを変化させていって、聴き手の心に強い印象とメロディの切なさを生じさせる技などが素晴らしいんです。

ポーターの名曲を、メロディ、コード、歌詞の世界から解き明かし、その魅力を素晴らしい歌で再確認いただける、こういうライブ企画は他にはないと思います。絶対楽しめて感動しますよ！

1st 解説付きライブ

- ・ I Love Paris
- ・ What Is This Thing Called Love
- ・ Night And Day
- ・ Anything Goes
- ・ So In Love

2nd ライブ

- ・ You'd Be So Nice To Come Home To
- ・ Just One Of Those Things
- ・ I Get A Kick Out Of You
- ・ I've Got You Under My Skin

4/7(日) 12:30開店 13:30開演

ミュージックチャージ : 3,800円(税込) 別途1ドリンク

Remi(vo)、外谷東(p)、マスター中川(解説)

アレンジのカ

ご予約はこちら → <https://ws.formzu.net/fgen/S29023882/>